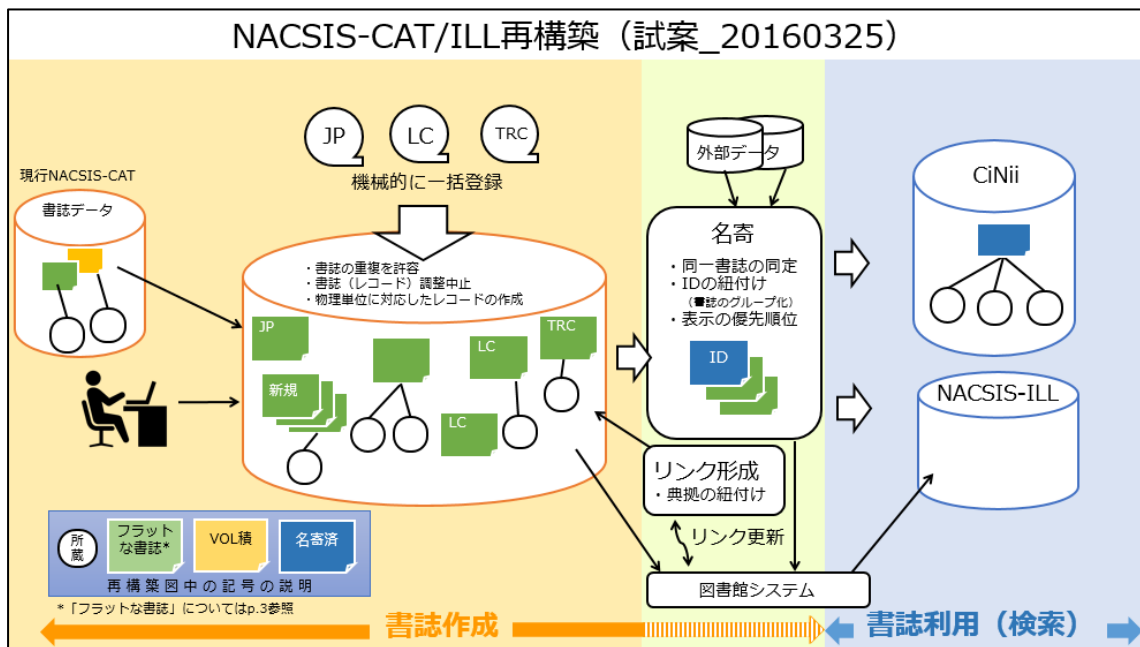


NACSIS-CAT/ILL の軽量化・合理化について（基本方針）（案）

「これからの学術情報システム構築検討委員会（以下、「これから委員会」）」は「これからの学術情報システムの在り方について」（平成 27 年 5 月 29 日）及び「NACSIS-CAT/ILL の軽量化・合理化について（基本方針の要点）（以下、「要点」）」（平成 27 年 10 月 27 日）で NACSIS-CAT/ILL 再構築の構想を示した。「要点」では、「書誌作成機能」と「書誌利用（検索）機能」との分離、書誌作成機能である NACSIS-CAT の軽量化・合理化、NACSIS-ILL を含む書誌利用（検索）機能の強化等の方向性が示されている。本資料では、これらを実現するための基本方針の提案を行う。資料の構成は以下の通りである。

1. 書誌作成機能（NACSIS-CAT）の軽量化・合理化
2. 書誌利用（検索）機能（含む NACSIS-ILL）の強化
3. 実現に必要な措置
4. 平成 32（2020）年以降の展開

以下は、「要点」に記載された図を改訂したものである。各項目と合わせて参照されたい。



なお、前述の「これから委員会」公表資料に含まれている事項のうち、本提案に含まれていないものは、実施の是非も含めて当部会で検討中である。今後具体化についてさらに調査及び検討を進めていく中で、随時検討結果を「これから委員会」に提案していくものであることをお断りしておく。また、雑誌についての検討は平成 28 年度以降を予定しており、今回は図書を中心に記述している。

1 書誌作成機能（NACSIS-CAT）の軽量化・合理化

電子情報資源への適切な対応のための資源（人的資源、システム資源、経費を含む）の確保のために、書誌作成と書誌管理作業の軽量化を図る。

また、現行の NACSIS-CAT は、従来の目録・OPAC を前提とする閉じた世界では十分に機能しているが、書誌階層構造の導入など独自性の強いデータ構造を持つため、国内外の外部機関作成 MARC 等と、単純な変換のみではデータ交換ができない*。外部データベースとの相互運用性を強化するため、データ構造の見直しによる合理化を進める。

*「次世代目録所在情報サービスの在り方について（最終報告）」参照

https://www.nii.ac.jp/CAT-ILL/archive/pdf/next_cat_last_report.pdf

1.1 書誌作成と書誌管理作業の軽量化

(1) 書誌作成作業負担の軽減

① 外部機関作成書誌データの活用

参照ファイルとして利用してきた「JAPAN/MARC」（国立国会図書館）、「US MARC」（米国議会図書館）等の外部機関作成書誌データを総合目録データベース内に直接登録し、流用手続きなく所蔵登録を行える環境を実現する。

② 典拠レコードリンク形成作業の自動化

著者名典拠レコード、統一書名典拠レコードへのリンク形成作業は、従来「書誌作成」と同時に手動で行っていたが、書誌登録後の機械的な処理へ変更を検討する。

③ 自動登録対応機能の強化

納品時のデータを利用した ISBN 等による自動所蔵登録等の機能を強化する。

(2) 書誌管理作業負担の軽減

① 「書誌作成機能」と「書誌利用（検索）機能」の分離

ILL など、「書誌利用（検索）」段階での機能性を担保するために「書誌作成」時に行っていた、重複書誌データ作成防止のための念入りな検索、重複書誌報告・統合などの書誌管理を不要とする。「書誌利用（検索）」時には、「名寄せ」（2.2 参照）により従来と同等の機能性を維持する。

② レコード調整の廃止

修正や重複書誌に由来する書誌レコード調整を廃止する。

1.2 データ構造の見直しによる合理化

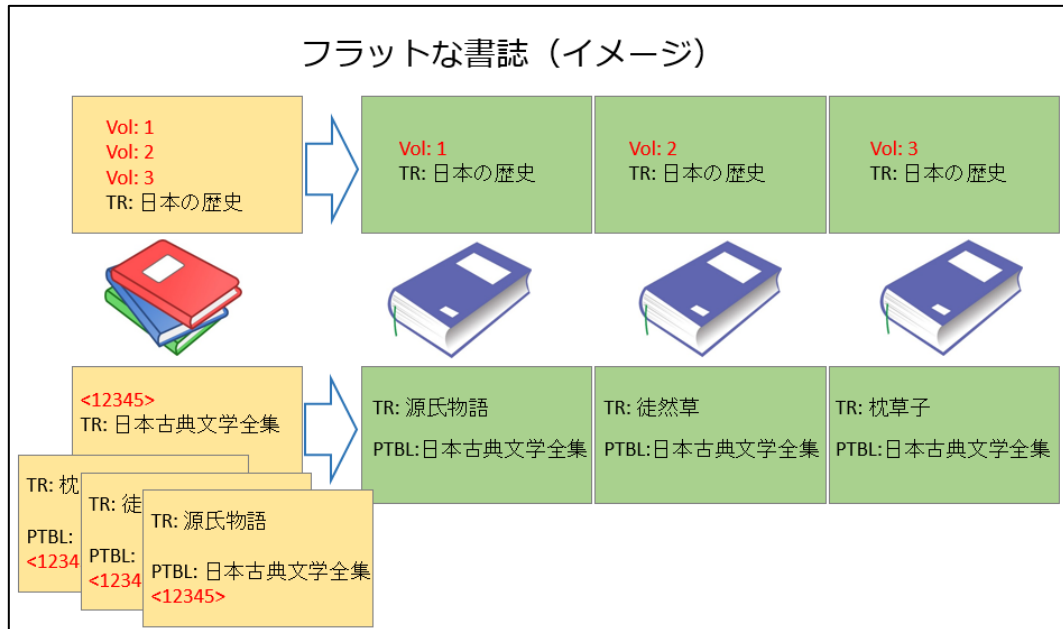
(1) 書誌構造リンクの廃止

シリーズ名など書誌階層がある場合も、シリーズ情報を書誌データに記述することとどめ、書誌構造リンク形成作業は行わない。

(2) 書誌作成単位の出版物理単位への変更*

書誌作成単位を、従来の単行書単位から出版物理単位に変更し、「VOL フィールド」の繰り返しでは表現しない。

* (1)と(2)の変更を「書誌データのフラット化」、作成したデータを「フラットな書誌」と表現する。



1.3 データ構造の見直しによる効果

- (1) 出版物理単位ごとの著者や形態事項など、従来記録されなかった情報を提供し、利用者の資料入手の判断材料を充実させることができる。
- (2) 物理単位での書誌とすることで、表紙画像表示・あらすじ・目次の追加など外部連携サービスを取り入れやすくなり、サービス拡張性が向上する。
- (3) 書誌作成単位を出版物理単位にすることで、所蔵自動登録の効率(精度)が向上する。利用分析用のデータ抽出や、一括データ更新の際、書誌と所蔵が一对一で対応しているため、作業の効率化につながる。

2 書誌利用(検索)機能(含む NACSIS-ILL)の強化

これからの学術情報システムでは、電子情報資源・紙媒体の区別なく、ユーザが必要とする学術情報を統合的に発見し、アクセスできる環境を構築することが求められている。効率的かつ迅速な学術情報へのアクセスを保障するために、ユーザ向けの検索プラットフォームである CiNii だけでなく、ILL 業務で参照するデータベースについても電子情報資源への対応が必要である。これまで NACSIS-CAT/ILL として一体的に提供されてきた「書誌利用(検索)機能」を「書誌作成機能」から分離し、書誌利用時に外部機関等で作成された電子情報資源のデータベース等と連携することで NACSIS-ILL を含む「書誌利用(検索)機能」の強化を図る。

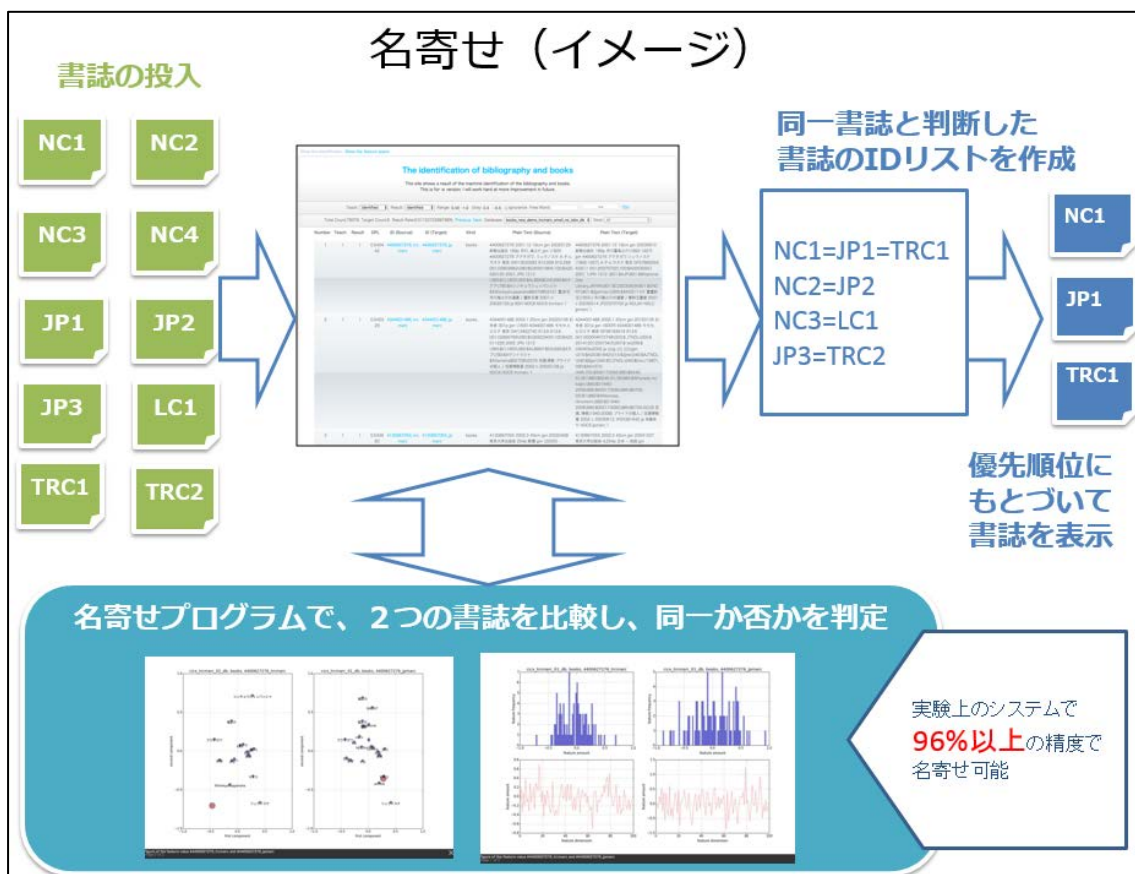
2.1 紙媒体資料と電子情報資源の統合的検索環境の提供

NACSIS-CAT で作成した紙媒体資料の書誌データと、国内外の電子情報資源に関する情報を集約・管理するデータベース等との連携を図り、統合的検索環境の実現を検討する。

2.2 「名寄せ」による重複書誌データの管理

外部機関作成書誌データの事前登録や書誌データのフラット化、新規書誌データの作成の結果、同一資料に対して複数書誌データが存在する場合でも、CiNii、NAICSIS-ILL 等「書誌利用（検索）機能」時に、機械的な「名寄せ」*を行うことで、統合的な検索環境を実現する。

*「名寄せ」：タイトルや出版者など、主たる項目のデータを比較し、同一書誌を表現していると判断されるものについて、グループとしてのまとまりを作るまたは統合する機能。CiNii Articles で実装・運用済。



3 実現に必要な措置

1 及び 2 の実現のため、「運用面」、「NACSIS-CAT/ILL 側」、「ローカルシステム側」等において、それぞれ検討・対応すべきことを述べる。

3.1 運用面での対応

(1) 外部機関作成書誌データの活用

- ① 外部機関が作成した書誌データを総合目録データベース内に事前登録するため、所蔵データなしの書誌データが存在することを許容する。
- ② 外部機関が作成した書誌データについては、作成時に準拠した目録規則を許容し、NACSIS-CATが準拠する目録規則に合わせるための修正は行わないこととする。
- ③ 外部機関が作成する書誌データとの相互運用性を担保するため、新規書誌作成時に準拠する目録規則は、「日本目録規則 1987年版改訂版」(和資料)、「英米目録規則第2版(1988年改訂, 1993年修正)」(洋資料)から、RDAやそれに準拠した改訂版日本目録規則など国際標準に合わせたものに移行する。

(2) レコード調整の廃止

- ① すべての参加機関に、従来通りに新規書誌を作成するための機能を提供する。
- ② これまでのレコード調整を必要とするような修正は、新規書誌データの別途作成によって対応する。
- ③ 同一資料に対する複数の書誌データ(重複書誌データ)の存在を許容する。
- ④ 運用面の変更に基づき「目録情報の基準」等の見直しを行い、書誌の入力ガイドラインを整備する。
- ⑤ 運用面の変更に対応した研修制度整備などを検討する。

3.2 NACSIS-CAT/ILL システム側の対応

(1) 書誌作成機能

- ① 書誌データのフラット化に伴う対応を検討する。
- ② 書誌データのフラット化に伴う既存書誌データの取り扱いを検討する。
- ③ リンク形成自動化の機能を実装する。
- ④ 自動登録対応機能の強化を検討する。
- ⑤ 外部機関作成書誌データの直接登録に伴う懸案に対応する。
- ⑥ 外部機関作成書誌データを活用するため、CATPで扱うフィールドの追加を検討する(現在REMフィールドに集約されているデータ等の活用)。

(2) 書誌利用(検索)機能

- ① 外部機関への書誌データ提供に必要な機能を検討する。
- ② 同一資料に対する複数の書誌データが存在する場合でも、「書誌利用(検索)機能」時の機能性を維持するため「名寄せ」を導入する。

3.3 ローカルシステムへの対応

- ① 各参加館図書館システムの対応に必要な準備期間等を考慮し、短期間での

システム改修が必須とならないよう対策する。

- ② 追加機能・フィールドや、制限する機能・フィールドが発生する場合には、後方互換性*に配慮し、現在利用できている機能は旧業務クライアントで継続して利用できるようにする。
- ③ 各館図書館システムと NACSIS-CAT 間のプロトコルとしては、当面 CATP を継続して利用する。
- ④ 書誌作成単位の変更等により各館の OPAC 等、利用者向けインタフェースの表示等に影響する可能性があることについては、情報提供を行う。
- ⑤ 書誌作成基準の変更による、ローカルシステム側の書誌検索(OPAC 含む)への影響について事前に調査を行う。
- ⑥ 各図書館のシステムベンダーと情報交換を適切に行う。

*後方互換性：後発製品が先発製品と互換性を持つこと。

3.4 ローカルシステム側の検討事項

(1) 書誌作成機能

- ① 書誌データのフラット化に伴う対応を検討する。
- ② 書誌データのフラット化に伴う既存書誌データの取り扱いを検討する。
- ③ リンク形成自動化に伴う、ローカルデータの取り扱いを検討する。
- ④ 自動登録対応機能の強化の導入を検討する。
- ⑤ CATP で扱うフィールドの追加が生じた場合の対応を検討する。

(2) 書誌利用（検索）機能

- ① NACSIS-CAT/ILL システムが名寄せした結果を、各館の OPAC 等、利用者向けインタフェースで活用する方法等を検討する。

4 平成 32（2020）年以降の展開

平成 32（2020）年度の再構築後も、利用可能な外部機関作成書誌データの拡充などにより、書誌作成・書誌管理においてさらなる作業負担の軽減を図る。また、利用者の検索環境の向上と NACSIS-CAT データベース全体としての付加価値を高めるため、NACSIS-CAT で作成された書誌・典拠データを、互換性や利便性の高い形式や方法で提供し、よりいっそう外部サービスと繋がっていくことが望ましい。